

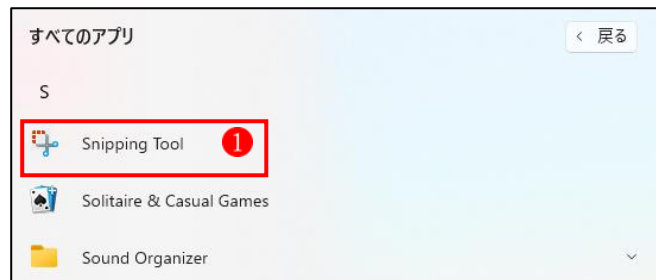
## Snipping Tool を上手く使いこなす

Windows11 にインストールされている「Snipping Tool」を使うと、簡単に画面をキャプチャーすることができます。「Snipping Tool」は Windows Update で新しい機能が追加されています。

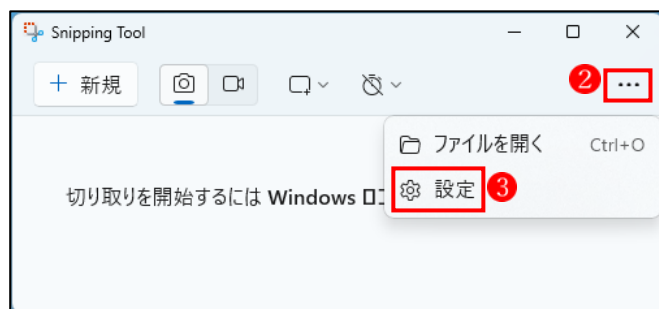
### 1 「Snipping Tool」の設定

「Snipping Tool」を使いやすくするために、あらかじめ初期設定をしておきましょう。

- ① 「すべてのアプリ」から「Snipping Tool」アプリ①を起動します。



- ② 「もっと見る」②をクリックし、メニューから「設定」③をクリックします。



- ③ 表示された画面で、「領域の切り取り」に関する設定を行います。「自動的に変更コピー」④をオンにします。  
 なお、切り取った画像を常に保存しておきたい場合は「スクリーンショットを自動的に保存」⑤をオンにします。(※切り取った画像は、ピクチャフォルダーの中の「スクリーンショット」フォルダーに自動的に保存されます。)  
 →「戻る」ボタン⑥をクリックします。これで、「領域の切り取り」に関する設定内容が適用されます。

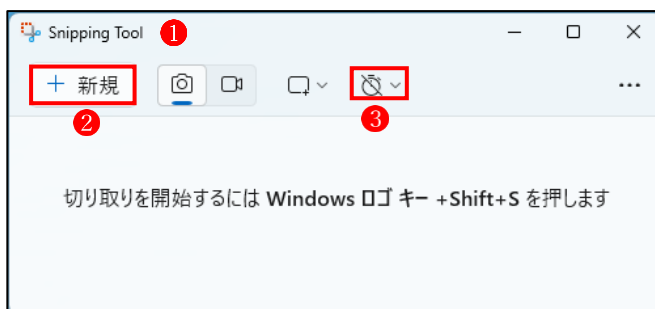


## 2 画面をキャプチャーする（切り取る）方法

### (1) まず「Snipping Tool」を起動します。

Snipping Tool を起動する方法は3通りあります。

- ① 「全てのアプリ」から「Snipping Tool」を選択する方法。  
→右図のウィンドウ①が開きます。



- ② 「Windows キー」と「Shift キー」と「S キー」を同時に押す方法。→右図のウィンドウ④が開きます。



- ③ 「Print Screen キー」を押す方法。→同上④

※②と③のショートカットキーによる起動の場合は、「新規」②と「遅延切り取り」③のボタンがありません。

### (2) 切り取りモードの種類

画像をキャプチャーする方法として、4つの<切り取りモード>があります。

#### ① 四角形モード

デフォルトで選択されている切り取りモードで、長方形の形でキャプチャーする領域を定義できます。四角形モードを選択した後に「+新規」をクリックすると、一瞬画面が暗くなります。その状態でマウスで画面の中のキャプチャーしたい部分を囲むようにドラッグすると、その領域がキャプチャーされます。

#### ② ウィンドウモード

このモードでは、画面上の任意のウィンドウのスクリーンショットを撮ることができます。ウィンドウモードを選択した後に「+新規」をクリックし、続いてキャプチャーしたいウィンドウ内をクリックすると、そのウィンドウの領域だけのスクリーンショットが撮れます。

#### ③ 全画面表示モード

このモードでは、デスクトップのフルスクリーンショットをキャプチャーします。

全画面表示モードを選択した後に「+新規」をクリックするとフルスクリーンショットが撮れます。

※マルチモニターを使っている場合は、このモードではすべてのモニター画面が一つ画像になってキャプチャーされます。個別のモニターの画面のみキャプチャーする場合は、ウィンドウモードを使って、キャプチャーしたいモニターのウィンドウをクリックします。

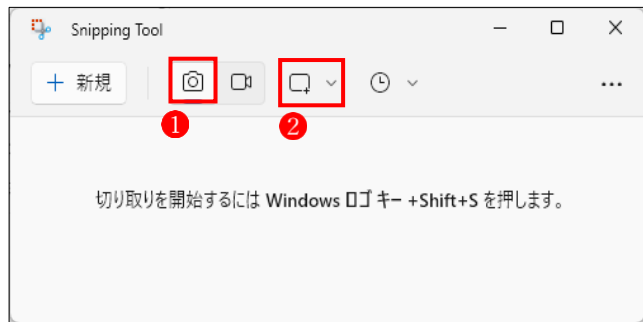
#### ④ フリーフォームモード

このモードでは、自由形式の方法でキャプチャーする領域を指定できます。フリーフォームモードを選択した後に「+新規」をクリックし、画面上の切り取りたい領域をマウスで自由にドラッグするとその領域がキャプチャーされます。

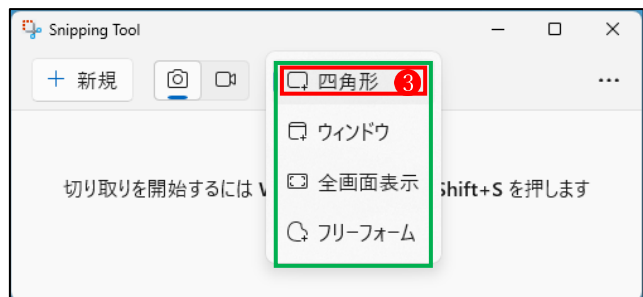
### (3) 画面キャプチャーの操作方法

ここでは、すべての機能が表示されているウィンドウでの操作方法を説明します。

- ① カメラのアイコン①をクリックします。
- ② 「切り取りモード」②をクリックします。



- ③ 「切り取りモード」の種類を選択します。  
ここでは、「四角形モード」③を選択します。



- ④ キャプチャーしたい対象をあらかじめ画面に開いておきます。

※ここでは、画像キャプチャーのサンプルとして、画像の含まれている Web ページ④を開いておきます。



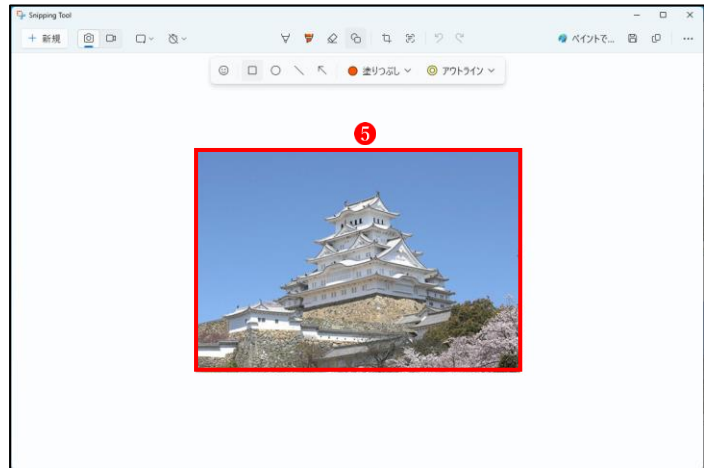
- ⑤ 切り取りモードは四角形モードになっているので、マウスで切り取りたい部分⑤を囲んで選択します。



- ⑥ 「Snipping Tool」に切り取った画像が表示されます⑤。

※画像を大きくしたいときは、「Ctrl キー」+「+キー」を押します。逆に縮小したいときは、「Ctrl キー」+「-キー」を押します。

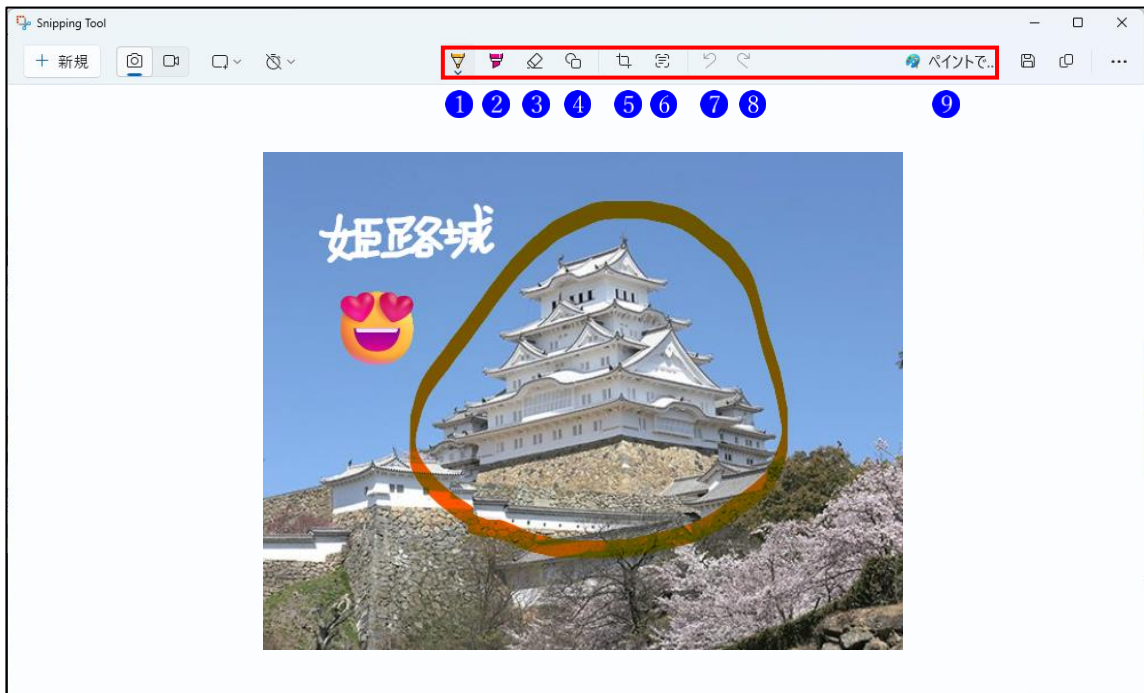
※なお、ここで画像を拡大または縮小しても、実際の画像のサイズには変わりません。



- ⑦ この画像は既にクリップボードにもコピーされていますので、特段の操作をすることなく他のアプリ（例えば Word）を立ち上げて貼り付けることができます。また、最初の設定の場面で「スクリーンショットを自動的に保存」をオンにしている場合は、同時に「ピクチャ」フォルダの「スクリーンショット」フォルダー内に画像が保存されているので、後で使うことができます。

### 3 切り取った画像の編集

「Snipping Tool」には画像の編集機能も付いていますので、ここで簡単な編集ができます。



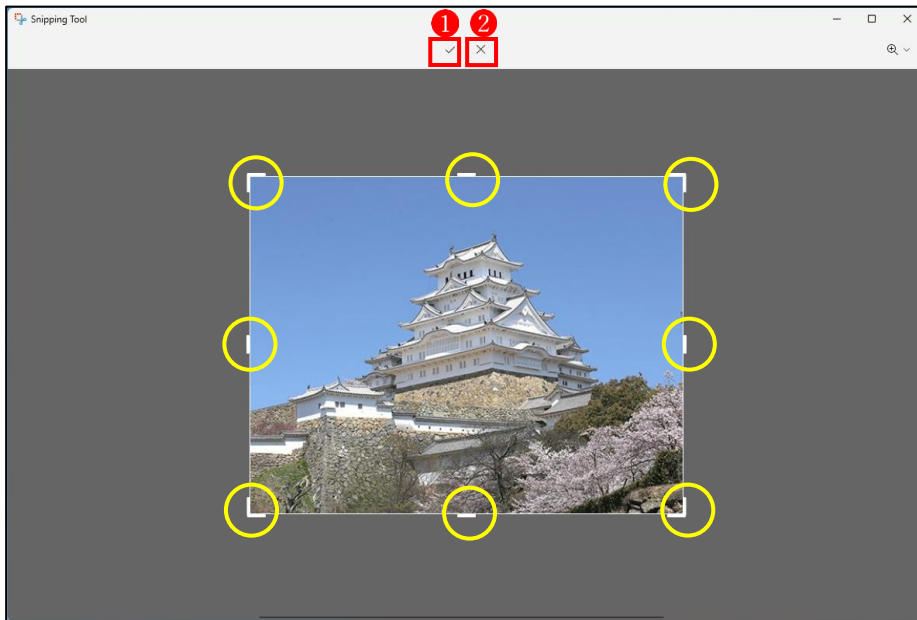
上図は、「ボールペン」①と「蛍光ペン」②と「図形」④を使って描きました。また、「消しゴム」③を使うと必要ない部分を消すことができます。

#### <各機能の説明>

- ①ボールペン ②蛍光ペン ③消しゴム ④図形 ⑤画像のトリミング  
⑥テキスト アクション ⑦元に戻す ⑧やり直し ⑨ペイントで編集する

(1) 「画像のトリミング」(新機能) ⑤ の使い方

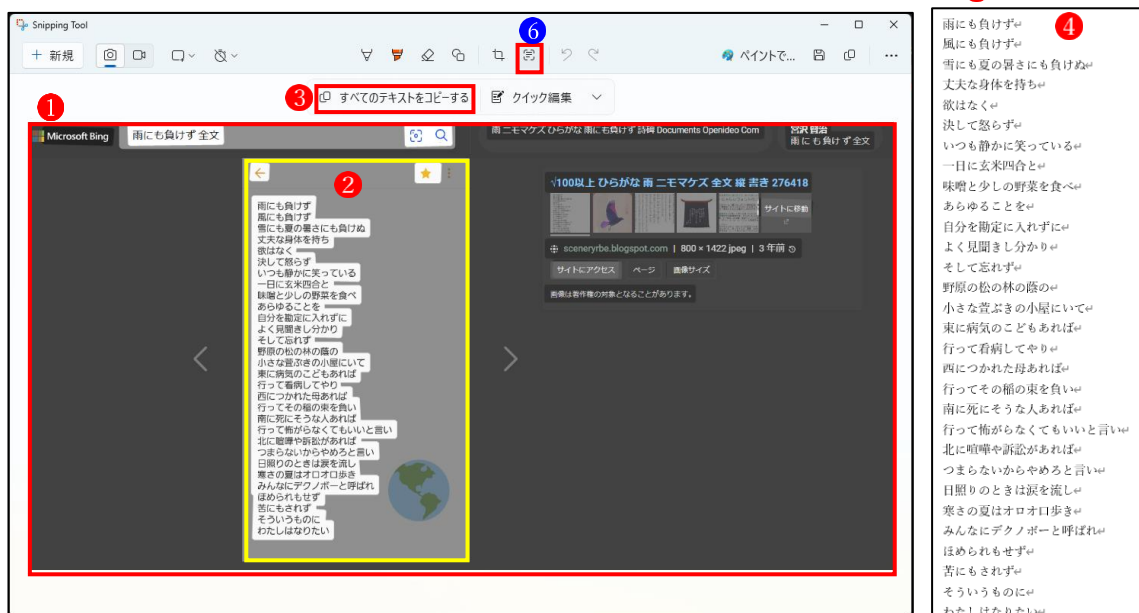
「画像のトリミング」ボタン ⑤ をクリックすると、下図のように画像の四隅とその中間にハンドル (※ここでは黄色い○) が現れます。このハンドルを動かして切り取りたい形に変形します。「✓適用」ボタン ① をクリックすると切り取りが実行されます。選択を解除したい場合は、「×キャンセル」ボタン ② をクリックします。



(2) 「テキスト アクション」 ⑥ の使い方

「テキスト アクション」とは、いわゆる OCR の機能です。

- ① 文字の書いてある (彫ってある) 写真をキャプチャーし ①、「テキスト アクション」ボタン ⑥ をクリックします。
- ② AI が写真の中の文字を認識します。認識が終わると ②、「すべてのテキストをコピーする」③ の文字が表示されます。
- ③ 「すべてのテキストをコピーする」③ をクリックすると、テキストがクリップボードにコピーされるので、Word などのアプリを起動して貼り付けることができます ④。



#### 4 ツールバーの機能

「Snipping Tool」のツールバーから、「名前を付けて保存」や「コピー」などを行うことができます。

##### ① 名前を付けて保存

キャプチャーした後に編集した画像を保存したい場合は、必ず「名前を付けて保存」**①**を行います。

##### ② コピー

キャプチャーした後に編集した画像を貼り付けたい場合は、必ず「コピー」**②**してから貼り付けます。

##### ③ 「もっと見る」**③**には、図にあるようなメニューが用意されています。



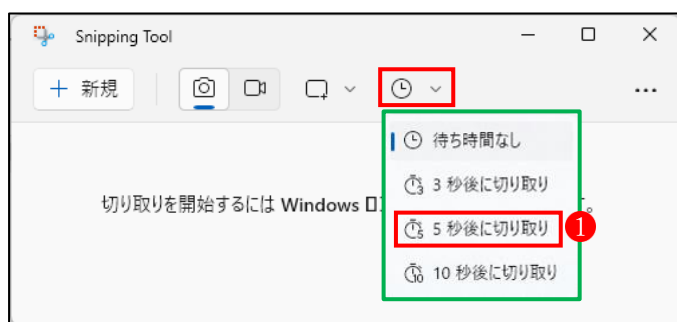
#### 5 「遅延切り取り」機能を使って画面をキャプチャーする

##### (1) 画面をキャプチャーしたい状態に固定してからキャプチャーする

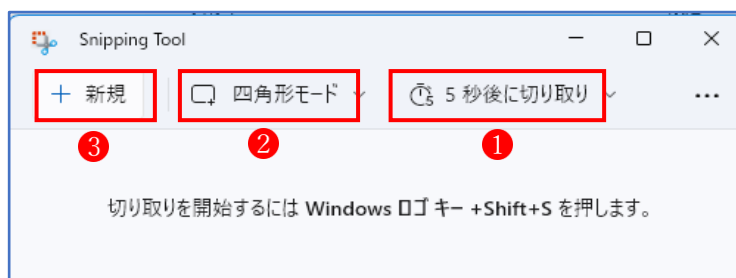
右クリックメニューが表示された状態を画像としてキャプチャーしたい時がありますが、普通にキャプチャーしようとしてマウスでクリック操作を行うと、肝心の右クリックメニューが解除されて画面から消えてしまいます。それを解決できるのが「遅延切り取り」という機能です。

##### ① 「遅延切り取り」をクリックして、選択肢の中からキャプチャーする状態をセットするのに必要な秒数を選択します。(☆ここでは「5秒後に切り取り」**①**を選択します。)

★ デフォルトでは「待ち時間なし」に設定されています。



##### ② 続いて切り取りモードを「四角形モード」**②**にし、最後に「+新規」**③**をクリックします。



- ③ 画面をキャプチャーしたい状態にセットします。

ここでは、PCのスタート画面をキャプチャーします。このスタート画面は、マウスで他の場所をクリックした途端に画面から消えてしまうので、通常の切り取り方法ではキャプチャーできません。

- ④ このまま5秒間経過すると、画面が暗くなります。この状態で、キャプチャーしたい部分①を囲むようにドラッグすると、通常の方法ではキャプチャーできないスタート画面を切り取ることができました②。

★ この遅延機能は、エクスプローラーの中で行う右クリックやデスクトップ画面の右クリックで表示されるメニューなど、特定の画面では残念ながら機能しません。

